

農林水産研究の推進（現場ニーズ対応型研究） 鶏及び豚の快適性により配慮した飼養管理技術の開発 【研究概要】

1. 研究目的

アニマルウェルフェア（※）の向上に資する飼養管理技術を開発することにより、採卵鶏および豚の快適性と生産性を高め、国内外の消費者の多様なニーズに応える畜産物生産を拡大し、需要の確保を図ることを目的とする。

※アニマルウェルフェア（動物福祉）：動物の生活とその死に関わる環境と関連する動物の身体的・心的状態

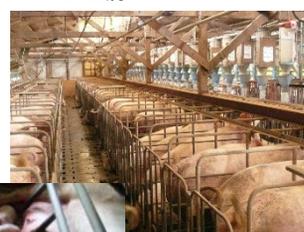
2. 研究背景

アニマルウェルフェアが関心を集め、大きな広がりを見せている中で、採卵鶏および豚の飼養管理技術には改善の余地が多く残されている。その一方、それらの飼養管理技術を低コストに改善する方法や導入するメリットは十分に明らかにされていない。

採卵鶏のバタリーケージ



妊娠豚のストール



子豚の損耗

改善の余地のある飼養管理技術

3. 研究内容

- ①採卵鶏の飼養環境の適正化およびエンリッチメント化のため、バタリーケージを改修
- ②妊娠豚の飼養環境改善のため、既存ストールの高度化と低コストな改善技術の開発
- ③子豚の損耗率低減のため、リジン要求量を高めた飼料を用いた飼養管理技術を開発

簡易型エンリッチドケージ



フリーアクセスストール



リジンを高めた飼料

快適性と生産性を両立した飼養管理技術開発

4. 達成目標・期待される効果

達成目標

- ・生産性が5%向上するバタリーケージ改修技術の開発
- ・妊娠豚ストールの低コスト改善技術、子豚の損耗率が1割低減する飼養管理技術の開発



期待される効果

- ・快適性と生産性が向上する飼養管理技術の普及
- ・国内外の消費者ニーズに応えた畜産物生産の拡大

研究代表機関：東京農工大学

共同研究機関：農研機構、山梨県、長野県、東海大学、東京工業大学、麻布大学、信州大学、NEC通信システム(株)